

チューリッヒ大学図書館での事例

神谷信武

自己紹介

大学図書館内でのお仕事

- 学術司書（日本学）、データキュレーター（[LARS](#)）
- [DLS](#) (Digital Library Space)

事例紹介・ワークショップ

- 2023年の秋学期にDHのためのワークショップを行った
- 2時間 x 10回のセッションをDLSのイベントとして計画

ワークショップ・動機

- DHについてみんな興味あると思うけどなんかだらっとDHについて喋れる場所がないかも
- （ハイエンドPCとかある）DLSはそういった場所に合うと思う、が現状はただの「自習室」
- データマネジメントをプロジェクト初期の段階からサポートできないか？

ワークショップ・ざっくりと

- [Githubのリポジトリ](#)でNotebook公開
- Google Colaboratoryを使い様々な分野の簡単なコーディングを見せた

ワークショップ・詳細

- Gif-It-Upの準備
- 画像生成AI Stable Diffusion
- ChatGPT API / Langchain
- AudioVisualデータで遊ぶ (Whisper/YOLO)
- ネットワークグラフの初歩
- テキストデータの処理 (自然言語とTEI)
- Foliumで地図作り

ワークショップ・結果

- 参加者はChatGPT以外は0-2名
- 参加者のレベルが2極化・初心者OR（けっこうな）経験者
- 経験者の人は準備した例だけだと足りない

ワークショップ・次回どうしよう

- ワークショップはDLSで引き続き提供可能らしい
- 宣伝！
- 内容説明をあらかじめやっておく
- とはいえ、「誰でも気軽に」は継続して

ワークショップ・展望、もしくは僕は どうしたいの？

- DLSを「あそこに行ったら図書館のおっさん、もしくは他に興味ある人がだらっとDHについて一緒に悩んでくれる」場所にしてみたい
- ワークショップはそういう雰囲気伝える場として

みんなどう思う？

- そんなのいない？
- 図書館である必要あり・なし？
- 大変そう？